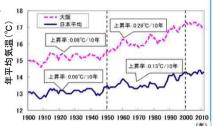
おおさかヒートアイランド対策推進計画 概要版

現状

◆大阪では地球温暖化による気温 の上昇や都市化に伴うヒートアイ ランド現象による気温の上昇によ り熱環境が悪化

大阪の気温: 100年で約2.1℃上昇 計 全国の平均: 100年で約1.0℃上昇 ^サ ヒートアイランド現象により 100年で約1.1℃の気温 ト昇



■2000年 ■2011年

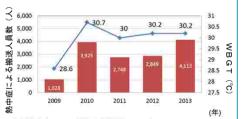
3地点平均

◆夏の夜間について

1998年から2002年の各7~9月 (245 における熱帯夜日数は現状と比較 (245) まると、大阪府域で37日⇒34日 と約0.8割減少 (250) 2002年の各7~9月 (245) 2002年の各7 (245) 2002年の本7 (245) 20

(現状とは、5年移動平均の2011年)

◆夏の昼間について 日中の高温化による熱中 症患者が2013年には 4,000人を超えるなど、 夏の昼間における暑熱 環境が悪化し、健康被害 が増加



大阪

- ※暑熱環境とは…人の身体に影響を与える暑さ環境のこと
- ※WBGTとは…気温、湿度、ふく射熱を取り入れた暑さ指数のこと

計画の趣旨

- ◆大阪府と大阪市で平成26年3月に既計画の目標等を統一した「大阪府市ヒートアイランド対策基本方針」を作成し、対策を推進。
- ◆本計画では、大阪府と大阪市が、基本方針をベースに大阪府環境審議会の答申や国のヒートアイランド対策大綱を踏まえ、ヒートアイランド対策の基本的な考え方や目標、取組内容を定めた。
- ◆従来の夏の夜間における対策に加え、夏の昼間における人の熱ストレスを軽減し、短期的に効果の現われる対策(適応策)の推進について、新たに追加した。

今後のヒートアイランド対策

◆基本的な考え方

- ○建物・地表面の高温化抑制や人工排熱の低減等の取組である「緩和策」の着実な推進
- ○「緩和策」に加え、人の健康への影響等を軽減する取組である「適応策」について推進
- ○特に大阪の都心部においては、都市の再開発や都市基盤の再整備の機会を捉え、多様な 対策メニューについて実施
- ○熱帯夜日数の削減に向け、新たに対策指標を設定し、適切に進捗管理を実施

◆計画期間:2015年度から2025年度まで

◆計画目標:目標1 住宅地域における夏の夜間の気温を下げることにより、 地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数を2000年より3割減らす

> 目標 2 屋外空間における既存のケールスポットの活用や創出をすることにより、 屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善する

◆取組の推進

人工排熱の低減

- ・建物の断熱化、設備・機器等の省エネ・省CO2化及び 運用改善
- ・エコカーの普及促進、エコドライブの推進
- ・エネルギーの見える化による省エネ意識の向上

建物・地表面の 高温化抑制

- ・建物表面の高反射化、緑化、太陽光パネル等による蓄熱の低減
- ・建築物の環境配慮制度による対策の促進
- ・道路や駐車場への透水性・保水性舗装の施丁

都市形態の改善

- ・公共空間・道路沿線民有地での緑化の促進
- ・都市公園や大規模緑地の整備、適切な維持管理
- ・風通しに配慮した取組を推進

適応策の推進

- ・適応策として効果のある緑化手法の検討及び普及
- 適応策の普及検討
- ・公園や公開空地等のクールスポットのネットワーク化
- ・マップやHP等を活用した身近なクールスポットの周知と活用

※ 環境省と連携して開発した「メッシュ熱負荷・気温予測システム」を活用し、対策指標から得られる 大阪府域の気温変化量を把握し、熱帯夜日数の削減対策の進捗管理を行う

対策指標…①省エネ活動実施率、②高反射塗装・瓦普及率、③屋上緑化普及率、④壁面緑化普及率、 ⑤太陽光パネル普及率、⑥透水性・保水性舗装普及率、⑦高反射舗装普及率、⑧市街地における緑被率

◆進行管理、推進体制

毎年、熱帯夜日数の状況やヒートアイランド対策の取組状況等について点検・評価を実施 府域市町村とさらなる連携によりヒートアイランド対策を推進

対策指標による進捗管理※

の 暑 熱 環

熱帯夜日数

0

削